

南砺市地域公共交通網形成計画(案)に関するパブリックコメント
 におけるご意見と市の考え方(回答)

平成31年3月1日から3月20日まで実施した、南砺市地域公共交通網形成計画に関するパブリックコメントにおいて、期間中に1件のご意見をいただきました。

ご意見と市の考え方は次のとおりです。

No.	ご意見の内容	市の考え方 (回答及び対応)
1	<p>私が住む地区では公共交通の便が少なく、日常の交通手段は自動車である。「なんバス」に乗ったことが無い者が多数を占める。しかし、当地での小規模多機能自治の開始に伴う住民アンケートで、若年層・高齢者層どの世代においても移動手段の確保が大きな課題となっていることが分かった。また、井波地域まちづくり検討会議からの提言書に含められた地域全体を効率的に巡回するデマンド式ボランティアタクシー路線の運行実現により地域住民と観光客の利便性向上が見込める。</p> <p>そこで当計画に含められている自主運行バスを当地において住民主体で運行したい。また、公共交通の利便性を高めるMaaSを当地において実現することで住民に使いやすく、観光客ら外部からの来訪者を誘引する手立てともなる。</p>	<p>本計画では、基幹路線と市営バスではカバーできない交通ニーズに対応する新たなシステムを検討するとしており、その一つの手法として自主運行バスをあげています。</p> <p>自主運行バスは、既存の交通事業者との調整や、法的な課題の解決などが必要なため、地域と協議しながら検討していきます。</p> <p>MaaSについては、システムの開発や各交通事業者の協力が必要なため、条件が整ったところから順次取り組みたいと考えています。</p>
	<p>特に昨年開設された富山大学都市デザイン学部にはこの分野の研究者が多数おられることから連携を密にすることが当地の公共交通を再構築することに有益である。</p>	<p>計画の策定にあたり、富山大学都市デザイン学部都市政策支援ユニットの学術指導を受けており、計画の実施についても、引き続き学術指導を受ける予定です。</p>
	<p>公共交通の利便性の拡大は私達地域住民のみならず、観光客ら外部活力を引き入れる重要な手段である。当計画により南砺市の交通手段の利便性拡大に寄与して頂きたい。</p>	<p>計画では、「広域的な交通と観光における拠点化を進める」ことを目標の一つとしており、観光を公共交通の重要な要素の一つとして位置付けることで、より利便性の高い公共交通の実現を目指します。</p>